

## 編集後記

■この度、新しく編集委員に加わりました。今まで会報を漠然と読んでいたのですが、編集委員という立場から今回は隅々までじっくりと読みました。そうすると投稿された方の書かれた時の気持ち伝わってくるようで、また一味違ったものを得ることができました。物事に前向きに関わることは、それなりの余禄が付いてくるものですね。(山) ■東日本大震災から3年。ダイオウイカや深海魚が漁網にかかったというニュースも度々目にします。何かの前兆じゃないよね？と、つい生き物の様子が気になります。(悦) ■キノコの同定も、キノコ探しの体力(気力?)も、あまり芳しくなく、みなさんの後をついていだけでは申し訳ないと思い、自分のできることでお手伝いを申し出ました。やってみてあらためて驚いたのは、みなさんの活動のすごさです。私の日常は素人が趣味の延長でやっている仲間とばかり過ごしていますから、気楽に参加したのですが、今は楽しい緊張感で、満たされています。頑張っていこうかなと思っています。(明) ■スライド会のあとの1月末が原稿締め切りなんだけど、そのあとに、ぞくぞくぞくぞく、と原稿があつまってくるのが、いいですね。本当の編集をやっている家族は、地獄の季節のようで、この期間、息をつめた家庭内の雰囲気となります。今回も表紙がすごいですね。かつこいいです。片山さん、みなさん、ありがとうございます。(光) ●最近のたのしみは、通勤の帰りの夜のドライブで聞か朗読です。母がもっていた名作朗読集を実家からもってきて、何気なく車で聞いたら、朗読はすごいものだな、とおもうようになりました。CDにはいる長さなので、だいたい1時間くらい。寒山拾得などは、何回きいても、やっぱり意味がよくわからないのですが(ネットで検索すると意味は書いてあるのですが・・・)、日本語のひびきが良い、というだけで何回も聞いているものもあります。赤いロウソクと人魚、とか童話もいいです。暗い夜道をどこか違うところまで行ってしまいそう。新潮社の朗読CDの目録をみると徳川夢声の宮本武蔵などもあって聞いてみたいです。落語も奥がふかいそう。でも、この車通勤がおわりそうで、また、年取ってからたのしみかな。(俊) ■いきなり来た春にはじまり、‘これまでに経験したことのない’という形容の気象を幾度か耳にしたこの一年。何事もない一日であるよう、そっと願う。春一番の吹き荒れる中、会報30号完成です。(公)

□本誌に加え、ホームページへのご意見やご感想などありましたらお聞かせください。またご要望も受け付けております。(事務局)

ISSN 1881-9230

千葉菌類談話会通信 30号

CHIBA MYCOLOGICAL CLUB BULLETIN NO.30

2014年3月

発行 / 千葉菌類談話会

編集 / 千葉菌類談話会編集幹事

千葉菌類談話会事務局

〒260 - 8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館植物科 吹春気付

ホームページアドレス <http://homepage2.nifty.com/chibakin/>